

# 第2次 新横田基地公害訴訟 原告団ニュース

発行者

第2次新横田基地公害訴訟原告団

〒197-0003 東京都福生市熊川1655-3

白鳥第2ビル302号

TEL/FAX. 042-552-4451

Email : syokotas@vesta.ocn.ne.jp

<http://www.yokota-kougai.com>**高裁弁論終結（2019年1月31日）後も騒音被害は続いている！**

## 補充書（飛行差し止め・将来賠償請求）を最高裁へ提出しました

先号の原告団ニュースでは、差止請求に関する補充書を最高裁判所に提出することになっておりましたが、改めて将来の損害賠償請求に関する主張も追加して一通の補充書として6月26日付で提出しました。

将来の損害賠償請求は、高裁判決の際にご報告しましたとおり、（ごく簡単に言いますと）将来における被害継続が認められるか明らかではないことを根拠に退けられました。

ただ、横田基地における騒音被害の継続は原告の皆さんであれば言うまでもないことです。

そこで、弁護団としては改めて最高裁判所に向けて、高等裁判所の弁論終結以降も依然として騒音被害、特にオスプレイの被害が継続していることを横田基地の基地機能が增大していることをとりまぜつつ主張をしました。

### 1 オスプレイの配備増

2018年10月1日、横田基地にCV-22オスプレイ部隊5機が正式配備となりましたが、さらに今後2024年頃までに5機を追加配備して10機体制にし、約450人の兵員の配備を予定しています。また、その5機追加配備に向けて、オスプレイの整備を行う格納庫等の建設を計画しています。このような状況の下、横田基地のオスプレイの離陸と着陸の合計は、正式配備後の1年間で、確認できただけでも840回にも昇ることとなり、それに伴い騒音も激化しています。

### 2 横田基地の出撃基地化、偵察拠点化

横田基地は、これまでの補給基地、輸送中継



基地としての運用から、特殊作戦部隊を用いての出撃基地、グローバルホークの受け入れと駐機施設の設置により、偵察拠点としての側面を持つことになり、さらに「統合宇宙作戦センター（AOC）」の設置も検討されています。

### 3 現在も継続・悪化する騒音等による深刻な被害

上記の通り、横田基地の機能強化に比例して騒音も増大しており、特にオスプレイの配備に伴い、年間飛行回数が1万回を超えることになり、それに伴って騒音も激化しています。

### 4 被害拡大に関する周辺住民の認識

さらに、横田基地において旋回訓練を実施している航空機の旋回の範囲が東西に拡大し、これまで被害地域に挙げられていなかった昭島市つつじが丘周辺の住民から昭島市議会に飛行高度測定を求めるなどの陳情がありました。陳情そのものは過去のニュースからも明らかのように不採択となりましたが、周辺住民にとって、騒音被害は増えてはいても減っているという認識はありません。

以上のとおり、将来騒音被害が継続しないなどということはありません。最高裁には被害継続の事実を前提に今度こそ将来の損害賠償請求を認めてもらうべく補充書を提出しました。

【弁護士 杉野 公彦】

■■■■■ 勝ち取ろう！「夜間・早朝の飛行差し止め」「将来損害賠償請求」 ■■■■■

## 騒音被害は広がっている

自治会ぐるみで声あげる  
住み続けたい町づくりめざして

昭島市自治会連合会  
上の原自治会長 野口 馨

私は昭島市昭和町に住んでいます。昭島で生まれ、昭島育ち。定年後、微力ながら十数年間自治会長を続けています。

今回、ペンを執ったのは、一昨年10月、米軍横田基地にCV22オスプレイ5機が配備されて以降、私たちの住宅の上空にC130輸送機が編隊を組んで爆音を上げながら低空飛行。午前9時過ぎから夜まで、飛行時間にばらつきはあるものの、ほぼ日常化しています。

これまでと明らかに異なる飛行ルート。3機編隊で繰り返しの低空飛行。東中神、昭和町他、各地域まで頻りに広がり騒音に驚いて自治会へ苦情が殺到しています。「なんでこんな住宅密集地の上を飛ぶのか！！」「自治会として市に抗議、直ちに止めさせてくれ」等々、いろいろなご意見があります。

私もたまりかねて、昨年10月、市の企画政策部に状況を伝え、文書回答を求めました。

11月18日付、企画政策課長の文書回答は「市としては、市街地の半分近くが飛行直下であり、半世紀余りにわたり航空機騒音被害と航空機事故や事件等、基地があるが故の様々な不安を常に抱えているが、日米合同委員会合意を遵守し、周辺環境への配慮、徹底した安全対策を講じること。市民のみなさまの思いを受けとめながら東京都や周辺自治体と連携し国及び米

側に粘り強く要請を重ねる」と回答があり自治会員の皆さんにお知らせしました。

あれから半年が過ぎた現在、改善されたところか、コロナウイルス感染防止の自粛・我慢の生活に追い打ちかける編隊輸送機の低空飛行、騒音被害は続いています。

自治会員さんからの繰り返しの苦情は、自治会として市に伝えています。

自治会としては、これまでとは異なる状況が固定化されないうちに、市がこの問題解決のため、どう粘り強く努力してきたのか、この問題の対策状況を市民に報告してほしいと願っています。

6月には、CV22オスプレイ部品の落下事故もあり、住民はさらに不安を感じています。

自治会としては、引き続き自治会員さん、住民の声を市へ届けて、安全・安心のまちづくり、住み続けたいまちづくりめざして、みんなが力合わせてがんばっていきたいと思います。



住宅の真上を飛行するCV22オスプレイ



昭島市街地上空を横田基地方面に飛行するC130-J輸送機

■■■■■ 勝ち取ろう！「夜間・早朝の飛行差し止め」「将来損害賠償請求」■■■■■

## 親子3代 航空機騒音直下の生活に終止符を

流山市在住 N.T.

私は3歳頃まで昭島市美堀町で育ち、その後は八王子に引っ越してきましたが、やはり、昭島の時と同様に米軍機が飛ぶ真下に越してきました。

幼い頃の飛行機の轟音は、はっきりと覚えています。ある、晴れた日に庭で遊んでいると、遠くからゴーって大きな音とともに巨大な影が現れ、それが飛行機だとわかった時とても怖かった。キーンという嫌な音で、両手で耳を塞ごうとするが、小さい手だけでは足りずに、両親に手を重ねてもらって耳を押さえてもらっていました。庭全部が機影で覆われて怖かった。今でも戦争映画などを見るとその時の事を思い出し、戦時中の人もそうだったのだろうなと思います。

7歳になる長女も八王子で育ち、長崎での暮らしを経て今は家族で千葉県流山市に越しましたが、八王子の時の体験を覚えているらしく、今でも大きな音が苦手です。成田を離発着する旅客機を時々見ますが、長女は「おばあちゃんのおうちが揺れてた

ね」「キーンって音がうるさかったね」と話しますから、幼心に嫌だった出来事が残っているのだらうかと思います。

両親の家に泊まりに行ったときは、夜中に飛行機の音がすると、体がピクピク反応して、不安で起きたこともあり。オスプレイの音は大人でも怖さがあるのだから、子どもは余計に怖いのではないかと思います。

5年間ほど長崎の平和公園が眼下に見えるマンションで暮らしていましたが、そこでの生活は、八王子の時と比べるととても穏やかなものでした。長崎生まれの下の子は大きな音におびえるような事は無いので、「三つ子の魂百までも」とはこの事かと思っています。

そろそろ、家を建てることを考えています。両親には申し訳ないのですが、オスプレイが激しさを増していると聞くと、航空機騒音直下の両親の家の近くは選択肢の外です。やはり、静かな環境の下での子育てがいちばんです。



## コロナ禍の中で綴った原告らの要請はがき 最高裁へ届けました

4月からの新型コロナ禍のなか、飛行機騒音の下での在宅勤務や外出自粛を余儀なくされ、様々なストレスを抱えて生活しました。そのような状況の中で、騒音への怒りと最高裁判所への切実な願いが綴られたメッセージが162通に達しました。

最高裁へ直接届け、同時に要請行動を行う計画を立てていましたが、コロナ感染状況が落ち着かないため、最高裁判所としては要請を受け入れる目途がたっていないとの回答があり、

6月29日に最高裁へ郵送しましたことをご報告いたします。

コロナ禍のなかにおいても米軍の飛行は自粛どころか、空母ロナルド・レーガン艦載機の戦闘機の異常な轟音と、C-130J輸送機やCV22オスプレイの低空旋回飛行が頻繁に行われ、私たちの生活が脅かされ続けています。

メッセージにこめられた声によって良い判決が得られることを願っています。

# 戦争準備か?! 危険な訓練やめよ! 騒音激化に抗議の声を届けよう!

外出自粛と室内換気を要請された4月から、私たちの上空は異常な事態となっています。昭島市が測定している横田基地南側の拝島第二小学校における4月の飛行回数は、1,481回を記録し、昨年972回や一昨年の847回を大幅に増加しました。5月も前年を大きく上回る1,042回にも達しました。ちなみに2019年度1年間の飛行回数は、過去5年間で大きく上回る1万2,577回を記録しました。瑞穂側を合わせるとなんと2万6,859回とイラク戦争開始直後の2003年を超え今世紀最多を記録する異常さで看過できません。

こうした状況に、周辺自治体に苦情が殺到し、横田基地周辺市町基地対策連絡会（立川市、昭島市、福生市、武蔵村山市、羽村市、瑞穂町）は、横田基地司令官、北関東防衛局長、横田防衛事務所長に対して、コロナ禍での航空機の運用について以下の口頭要請をしたそうです。

「新型コロナウイルス感染症が終息していないことを念頭に、訓練や飛行運用における時間帯を考慮し、頻繁な低空飛行、旋回飛行及びCV22による長時間のホバリングを控える等、周辺住民の心情に十分配慮すること」と強く申し入れたのは当然です。

騒音激化の背景には、中国の海洋進出に対抗するため、インド太平洋地域での軍事作戦への



## 「うるさい!」と思ったら・・・ 市役所、町役場に電話をしましょう

地元住民からの声は、苦情として扱われ、自治体が防衛省や横田基地に抗議・要請する大きな力になります。

### 訂正とお詫び

4月30日発行原告団ニュース第56号は『第57号』の誤りでした。  
第57号3ページ「5つの基地訴訟 高裁判決内容」一覧表の、第9次横田基地公害訴訟の判決日は『2020/1/23』の誤りでした。訂正してお詫び申し上げます。

即応能力強化があります。その一環で横田基地では組織的大演習が6月17日～26日に行われていたのです。しかも直前の6月16日に基地所属のCV22オスプレイの部品落下事故が判明、いまだにその部品は発見されていません。ところがそんなことはお構いなしに、オスプレイでの、空中停止しながら低空でロープによる兵士降下訓練や夜10時過ぎの夜間飛行などの異常な訓練が始まりました。特殊作戦部隊を戦争の最前線投入を想定したものにほかなりません。6月29日からはオスプレイによるパラシュート降下訓練を初めて実施。住民からは「戦争の準備か!」などと不安な声が出ています。

そしてとうとう心配していたことが発生してしまいました。7月2日、UH60軍用ヘリを使ってのパラシュート降下訓練で失敗し、メインパラシュートは住宅街の立川市西砂町の浄水場に、部品が電線に落下する危険な事故が起きてしまいました。もう危険な訓練は止めてくれと言わざるを得ません。

私たちは横田の現状や原告の生の声を「メッセージはがき」にこめて最高裁に訴えました。甚大な被害が更に継続しており、高裁結審日以後の将来賠償請求を認めるのは当然だと訴えましょう。そして抗議の声を自治体へ届けましょう。  
【事務局長 奥村 博】

## 原告団活動日誌

- 4/27 原告団ニュース第57号発行・発送
- 4/28 報告集作成検討会議
- 5/11 定例事務局会議
- 5/15 原告団ニュース編集会議
- 5/21 弁護団会議に出席 (WEB会議)
- 5/27 第86回原告団幹事会 (WEB会議)
- 5/28 報告集作成検討会議
- 5/31 会計監査
- 6/8 定例事務局会議 (WEB会議)
- 6/11 臨時事務局会議 (WEB会議)
- 6/12 固定騒音計点検
- 6/15 第87回原告団幹事
- 6/23 弁護団会議に出席 (WEB会議)
- 6/29 要請はがきを最高裁判所に送付